

北八ヶ岳「坪庭」を訪ねて

宇敷 辰男

北八ヶ岳ロープウェイに乗ると七分程で終点「坪庭駅」(標高二三三七^{メートル})まで簡単に昇ることができる。南に赤岳(二八九九^{メートル})を始め八ヶ岳連峰や、北岳(三一九三^{メートル})を擁する南アルプス、その西に木曽駒ヶ岳(二九五六^{メートル})も連なる中央アルプス、更に穂高連峰(三一九〇^{メートル})から槍ヶ岳(三三八〇^{メートル})まで北アルプスも、一望の下に見渡すことができる。

山頂を目指さない山歩きが好きだけれど、五〇代は夫婦で「坪庭」を起点にして登頂したこともある。坪庭を振り返りながら登った北横岳(二四八〇^{メートル})。夏でも冷たい風が吹き上げてくる縞枯山(二四〇三^{メートル})。オオシラビソの樹林の間を野鳥がぬつて飛び交う森を抜けて登った八柱山(二二一四^{メートル})。登頂の帰りは坪庭のコケモモのアイスクリームが楽しみだった。

七〇代になって久しぶりに「坪庭」を訪れた。ここは一周が一・二^{キロ}程の周遊散策コースで、急な上りや下りの階段もあるけれど、所々に休憩所もあり気軽に楽しめる。日射しが降りそそぐ溶岩の上に緑が広がり、岩場に生育している実を付けた高山植物の上を、爽やかな風が吹き渡っていた。

足元の小径に咲くリンドウ。コイワカガミが艶のある小さい蓮のような丸い葉を広げている。その隣でコケモモが直径七^{センチ}程の小さい実を付けていた。その実を噛むと酸っぱい味が口に広がった。

丈の低いハイマツの隣に常緑小低木のガンコウランが小さい実を付けていた。黒光りする実を摘まむとジューシーで美味しい。クラウベリーとも呼ばれジャムやジュースになるそうだ。

更に歩いていくとミヤマオトギリソウが紺色の少し大きめの実を付けていた。これも摘まんで口に入れたら、舌先が少し痺れる感じで不味かった。高山に成る実なら何でも旨い訳じゃない。

坪庭の帰りに晴れ渡った空の下、展望テラスで遠景に連なる山岳を眺望しながら、コケモモのジュースを飲んだ。甘酸っぱくて爽やかで旨かった。登頂せずとも又「坪庭」のベリー探しを楽しんでみたい。